# 1　地球環境問題とは

**★授業のポイント**

地球環境問題は，大量生産・大量消費・大量廃棄という社会システム・産業活動・人間生活が原因となって，地球規模で引き起こされている環境悪化である，ということを忘れてはならない。

**★指導案**

裏の見返しにある公害・環境問題年表を活用したい。「環境史年表　昭和・平成」(河出書房新社)を活用するのもよいだろう。

○ある地域でのローカルな環境問題にかかわるできごと，ある国でのできごと，世界的な(グローバルな)できごとをマーカーで3色に塗り分けてみよう。大まかな区分でよい。

○年表の塗り分けで見えてきたことを話し合ってみよう。ローカルな問題がグローバルな問題へ結び付くという傾向が見えてこないだろうか。地域の環境悪化への反対・問題提起などの運動が，法制度の整備へ向かう傾向が読み取れないだろうか。

○1980年代の終わりごろから，地球規模の環境問題という認識が世界に広がり始めたことが見えないだろうか。アメリカのシンクタンクであるワールド・ウオッチ研究所が「地球白書」という年報を刊行し始めたのは1984年である。

**●事項の解説**

**1．地球環境問題**：地球規模のグローバルな環境問題を示す用語で，地球温暖化(気候変動)，オゾン層破壊，越境大気汚染(酸性雨)，生物多様性の破壊，海洋汚染などがよく取り上げられる。これらの問題は，地球の自然システムとして相互に密接に関係する物質，エネルギー，生物系の微妙なバランスが人間活動によって崩されることによって生じる。1987年に発表された国連の報告書『Our Common Future』(『地球の未来を守るために』福武書店)は地球規模の環境問題に世論が向くきっかけになった。古い本であるが，ここで指摘されたことの多くはそのまま現代にもあてはまる。図書館などで探し，序章だけでもコピーして，生徒とともに読みたい。

**■調べてみよう**

1．神岡浪子著『日本の公害史』(世界書院，1987年)などの公害年表を参照したい。4大公害事件以外に，各地で大気汚染・煤煙・スモッグとぜん息，ヘドロ，毒物混入などさまざまな係争事例が大量に見いだされる。1970年に初の公害メーデー，「公害国会」(第64回臨時国会)をむかえた。

2．原田正純らの提唱する水俣学にも注目したい。

3．越境大気汚染(酸性雨)として，日本に具体的な被害を及ぼしている中国の事例は多い。

**■考えてみよう**

1．生産時に発生する廃棄物，とりわけ危険な物質などを除去するには，多額の設備投資が掛かる。この投資を削減して商品を安価にし，より多くの利益を出そうとしたため，環境に危険な物質が放出され，それを回収するのに莫大な費用がかかった事例は，日本でも度々発生している。

2．体が小さかったり，代謝・免疫機能などが低下していたりするためである。最初に環境悪化の危険信号を伝えてくれる生物たちには日ごろから目を向けていきたい。生物や生物の反応をもとに，環境の状況を把握する「指標生物」は，教育現場や市民運動で有効な概念である。日本自然保護協会編「指標生物　自然を見るものさし」(平凡社)は多様な事例が紹介されている。

**■まとめてみよう**

地域の環境の集まりが地球規模の環境だ。町をフィールドワークして，環境問題を枚挙しよう。

たとえば，「排水溝にたばこの吸い殻がすてられている」，「ビニル袋が街路樹の枝に引っかかっている」といった枚挙した事例をポスト・イットに記入する。これらの事例が，どのような地球環境問題と結びつくか話し合おう。たとえば，最終的に海へ流れ込んだたばこのフィルターやビニル袋は，ウミガメなどが誤食して死亡することもある。

地球環境問題ごとの模造紙に事例を貼りつけて埋めていこう。事例ごとの関係も話し合い，矢印などで結んでみよう。